

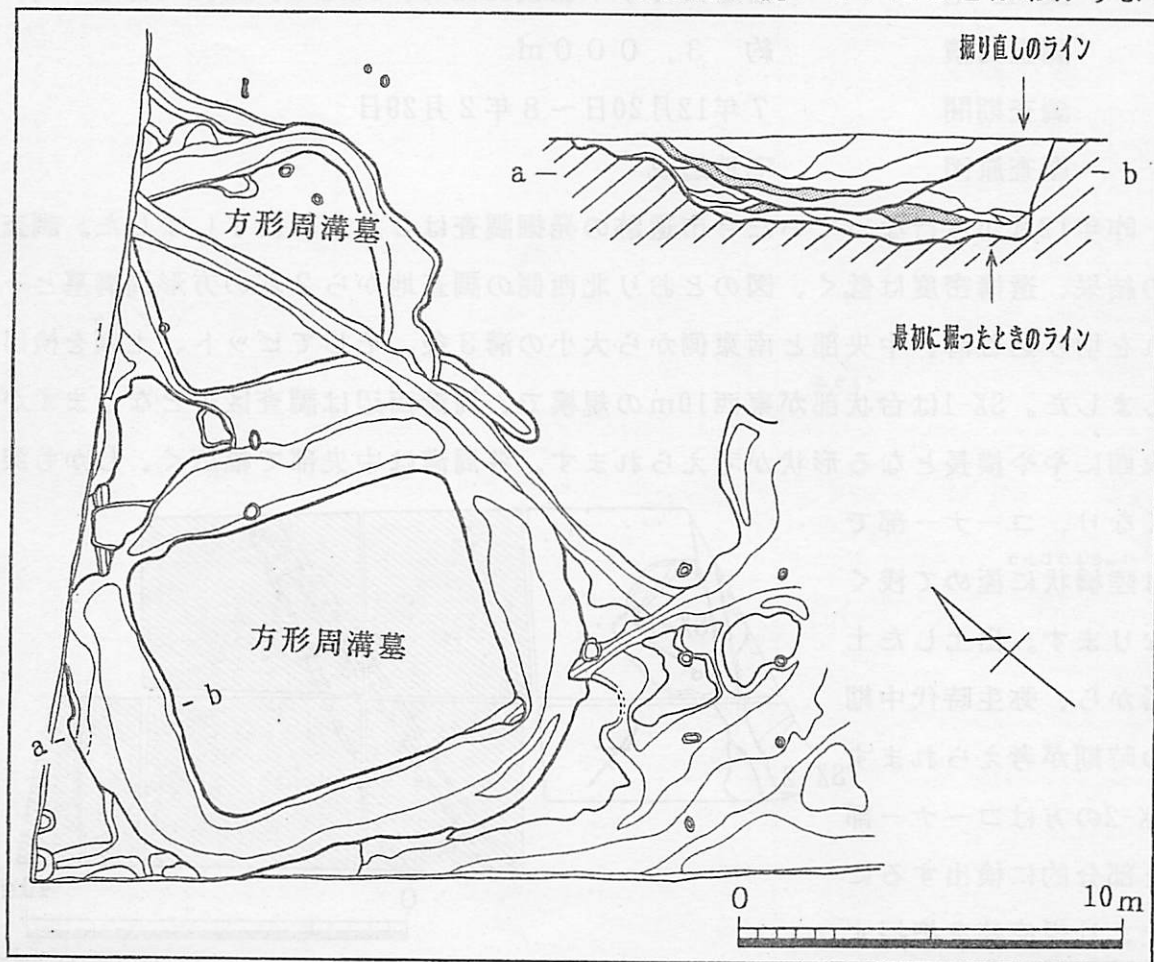
第85号 通巻15巻 第6号
1996年 3月31日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎0775-85-4397

〒524-02
守山市服部町2250番地

☆ お墓の記憶 ☆ — お墓がもう一度掘り直されるということ —

現在調査中の塚之越遺跡で、弥生時代後期の^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓が2基発見されました。このうちの1基は、一度埋まった周溝を再び掘り直していました。どのくらいの期間をおいて、溝を掘り直しているかはわかりませんでした。大変めずらしい例であるといえます。この掘り直しは、方形周溝墓の^{マウンド}盛土が崩れたために行なわれたものか、また、^{はっとり}服部遺跡では方形周溝墓の^{まいそうしゅたいぶ}埋葬主体部が複数あることから、^{ついそう}追葬に伴い行なわれたものなどが考えられます。このようなことから、弥生人の中には相当長い間、周溝墓が墓であるという記憶が続いていたことがわかります。



☆ 発掘調査だより ☆

SSS SSS SSS 調査終了 SSS SSS SSS

1. 伊勢遺跡 (第31次調査) (34次)

調査地 伊勢町字伊勢里525

調査面積 80㎡

調査期間 3月4日～3月22日

調査原因 個人住宅建築

伊勢町のJR線踏切りの南、集落内の一角を小面積ながら調査しました。調査地の大半は、近・現代に攪乱^{かくらん}されていて古い時代の遺構はかなり削られていました。しかし、一部では中世の溝や土壇、柱穴などを検出しました。注目される弥生時代の遺構は、今回発見されませんでした。(川畑)

2. 今市遺跡

調査地 播磨田町字下左城1252-1、1253-1、1254-1番地

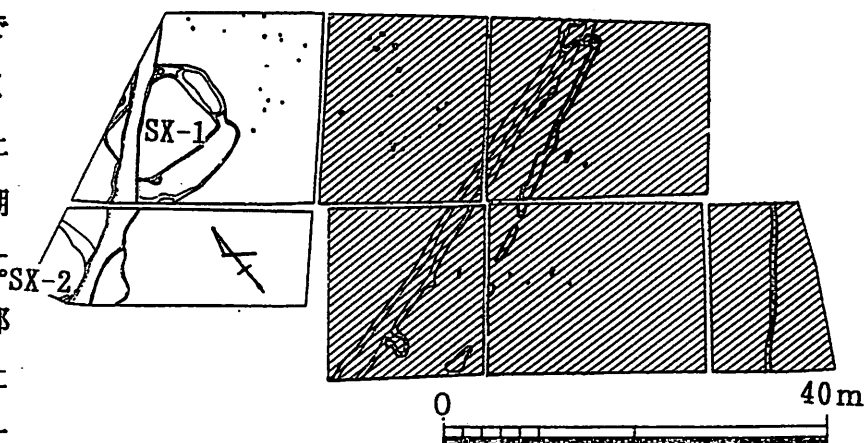
調査面積 約 3,000㎡

調査期間 7年12月20日～8年2月29日

調査原因 宅地造成

昨年12月から行なっていた今市遺跡の発掘調査は2月末に終了しました。調査の結果、遺構密度は低く、図のとおり北西側の調査地から2基の方形周溝墓とそれを切り込む溝、中央部と南東側から大小の溝3条、そしてピット、土壇を検出しました。SX-1は台状部^{たいようぶ}が東西10mの規模で、周溝西辺は調査区外となりますが東西にやや横長となる形状が考えられます。各周溝は中央部で幅広く、しかも深くなり、コーナー部で

は陸橋状^{りっきょうじょう}に極めて浅くなります。出土した土器から、弥生時代中期の時期が考えられます。SX-2の方はコーナー部を部分的に検出するに止まり規模等を把握す

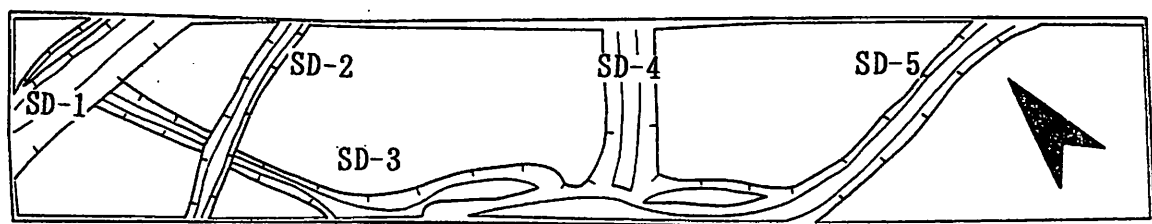


ることはできませんでしたが、SX-1と同じ方位に築かれています。西側の新設県道（矢橋・小島線）でも、県教育委員会の発掘調査によって弥生時代中期の方形周溝墓がみつかり、今回検出した2基の方形周溝墓もそれに接続し帯状に築かれたもので、その東端がSX-1であると考えられます。（岩崎）

3. 吉身西遺跡（第71次調査）

調査地	下之郷町字下鎌田647、601-2、601-4番地
調査面積	約 230㎡
調査期間	3月4日～3月14日
調査原因	共同住宅建築

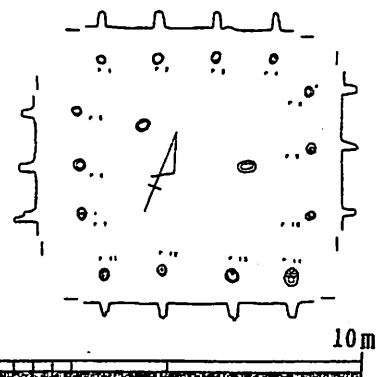
今回の調査地は守山市福祉保健センター（すこやかセンター）の東側の水田地です。調査の結果、図のとおり幅50cm～2mの溝を5条検出しました。SD-1～4からは遺物の出土はなく時期を特定することはできませんが、SD-5からは土師器が少数出土し、古墳時代前期の溝で調査区外の南西側に深く広がることが予想できます。当地の東方70mの地点では、下之郷遺跡の弥生時代中期の集落を巡っている環濠が検出され、南西側（県立小児医療センター）では古墳時代前期の方形周溝墓群が検出されています。弥生時代の集落と古墳時代の墓域の中間にあたる地域には、今回の調査で両者を区分する河道、あるいは低地状地形の存在が考えられるようになりました。（岩崎）



4. ニノ畦遺跡（第5次調査）

調査地	吉身町4丁目字宮ノ北617番地 他
調査面積	約 2,500㎡
調査期間	7年12月1日～3月15日
調査原因	宅地造成

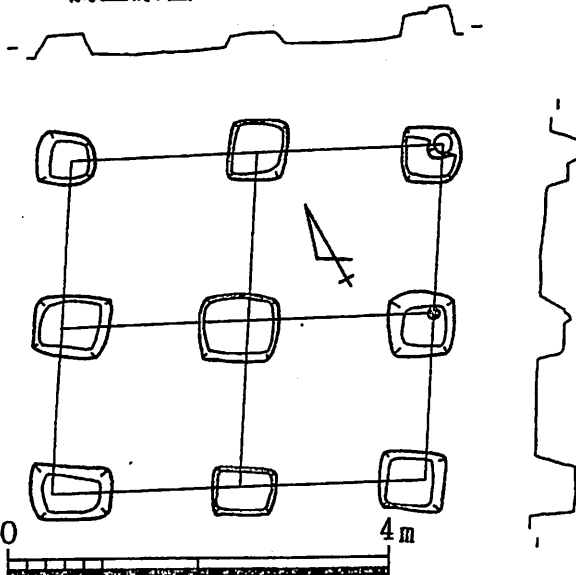
今回の調査では、古墳時代前期後半と考えられる竪穴住居2棟・掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}2棟・土壇・溝・柱穴等がみつかりました。この建物は、家を建てる際に要となるはずの四隅の柱穴がなく、亀甲形^{きっこうがた}の様な平面形態をしています。弥生時代から古墳時代にかけてみられる掘立柱建物は、長方形の平面形態を採用することが多く、今回の様な掘立柱建物は大変珍しい例であると言えます。



(木村)

5. 古高城遺跡^{ふるたかじょう}

調査地 古高町字東円前29番地
調査面積 1,479㎡
調査期間 1月22日～3月22日(予定)
調査原因 宅地造成



遺構は耕作土直下で検出でき、掘立柱建物、土壇、溝と数多くのピットを検出しました。このうち掘立柱建物の1棟は、東西2間(3.5m)×南北2間(4.0m)の規模の建物です(図参照)。遺物は少なく時期はよくわかりませんが、9世紀末の黒色土器碗^{こくしよくどきわん}が出土したSK-2の上に築かれていることから、10世紀代と考えられます。このほかの遺構からは壺^{つぼ}、

甕^{かめ}、手焙形土器^{てあぶりがた}、杯蓋^{つぎふた}、黒色土器碗、灰釉^{かいゆう}の皿などが出土しており、弥生時代後期から鎌倉時代までの時期が考えられます。

(畑本)

6. 益須寺遺跡^{やすでら}

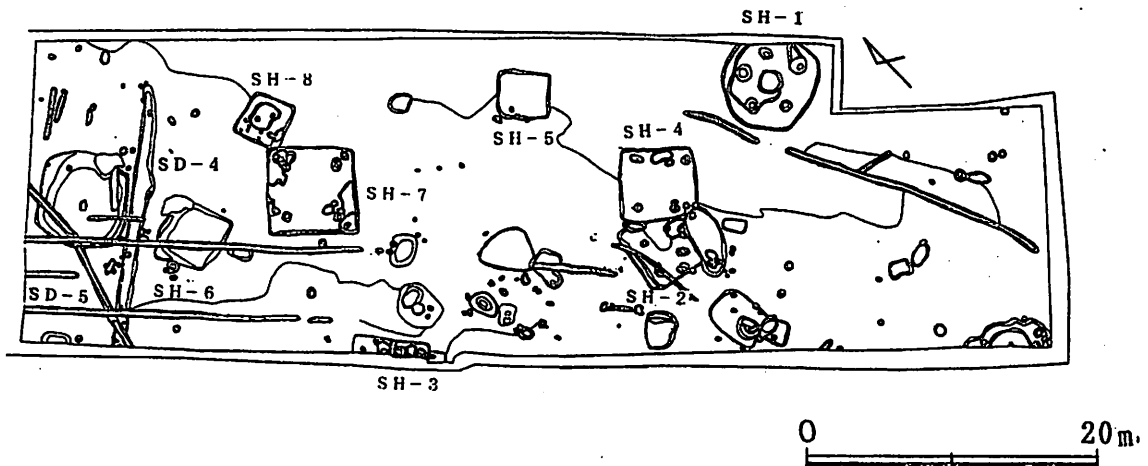
調査地 吉身町字6丁目園田156-2
調査面積 110㎡
調査期間 2月5日～2月27日
調査原因 個人住宅建築

県道琵琶湖大橋取付け道路がJR線と交差する地点のすぐ西側水田地を調査しました。耕作土直下で旧地表面が確認され、古墳時代前期の^{たてあな}竪穴住居跡を検出しました。竪穴住居は、平面形は一辺が6.5m程の方形で、床面は周りより40cm程掘り下げて造っていました。天井は、4本の柱で支えていたと思われ、^{しゅちゅうけつ}主柱穴の跡が床面に残っていました。住居を埋めていた土砂からは、古墳時代前期の^{つぼ}壺や^{かめ}甕が出土しています。(川畑)

7. 吉身西遺跡 (第70次調査)

調査地	守山町字510番地
調査面積	約 1,800㎡
調査期間	7年11月1日～8年3月15日
調査原因	市民病院建築

今回の調査では弥生時代中期の^{どこう}土壙、弥生時代後期の^{たてあな}竪穴住居2棟(SH-1・6)、古墳時代前期の竪穴住居4棟(SH-2・3・7・8)、溝2条(SH-4・5)などがみつかりました。このうち、古墳時代前期の3棟の竪穴住居(SH-2・3・7)からは^{かっせき}滑石製^{うす}臼^{だま}玉や^{くだま}管玉などの製品をはじめ、未製品や大量のチップ(削りカス)がみつかりました。このことから、小規模ながら滑石を使った玉生産が行なわれていたことがわかります。この時期の竪穴住居は守山警察署周辺から県立成人病センター付近にかけて、これまでに十数棟が分散してみつかっています。おそらく、径300m程の範囲内にいくつかのグループ(竪穴住居数棟を単位にしたもの)が、分散して居住し、一つのムラをつくっていたのではないのでしょうか。(小島)



8. 女 天 神 遺 跡

調 査 地	今宿町
調査面積	1, 187㎡
調査期間	2月20日～4月31日（予定）
調査原因	守山小学校体育館新築工事

市立守山小学校体育館新築工事に先立って同小学校グラウンド内で試掘調査をした結果、古墳時代～室町時代にかけての溝や柱穴が検出されたので、2月20日から発掘調査を実施しています。重機でグラウンドの土を取りのぞき（約20m）、その下の黄色の粘土層の表面で生活跡を探しています。これまでに縄文時代後期以前と考えられるチャート製の石鏃^{せきぞく}1点、古墳時代後期の柱穴^{ちゅうけつ}、室町時代の溝跡などがみつかっています。生活跡がたくさん発見できれば、小学生と一緒に発掘したいと考えています。

（山崎）

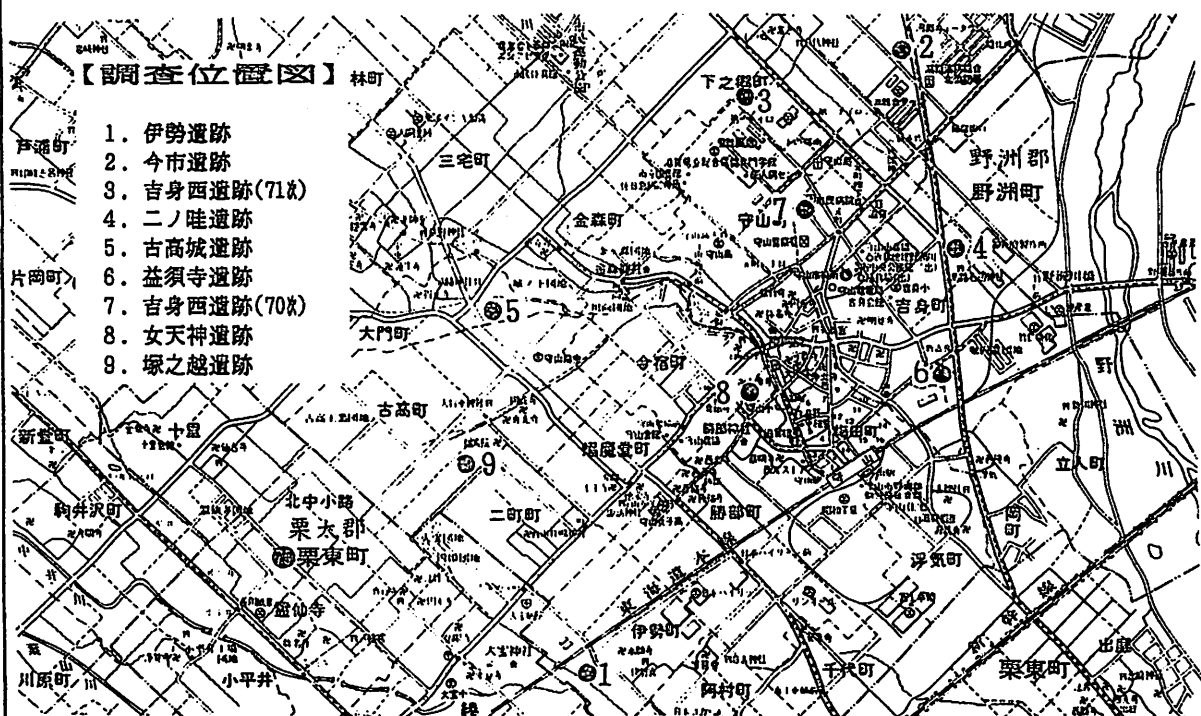
9. 塚 之 越 遺 跡 （第11次調査）

調 査 地	古高町字北林 他
調査面積	約 5, 000㎡
調査期間	7年10月24日～8年3月31日（予定）
調査原因	宅地造成

現在調査している概要をお伝えする前に訂正があります。平成7年度に行なわれた塚之越遺跡の調査次数が「8次調査」⇒「9次調査」、「9次調査」⇒「10次調査」、「10次調査」⇒「11次調査」というように変更になります。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。

今回の調査では、縄文時代中期後半の土器・石器、巻頭で紹介しました方形周溝墓2基、古墳時代後期の溝多数、中世の掘立柱建物6棟がみつかっています。この中で、縄文時代のものについて報告します。縄文時代の遺跡は、基盤となる層（地山^{じやま}）に多数の土器や石器が含まれていますが、はっきりとした遺構（溝や住居跡）はみつかっていません。そのため、地山の一部を深く掘りこみ更に下層の状況を確認したところ、新たに土器を含む層がみつかりました。したがって縄文時代における塚之越遺跡は、2つの時期にわたって存在していることがわかり

ました。今後、この2時期にわたる縄文時代の解明に重点をおき、周辺の下長遺跡や栗東町の霊仙寺遺跡との関係、また縄文時代の地形利用についても調査を行なっていく方針です。詳しいことは次号にて報告する予定です。(佐々木)



☆ 文化財調査の窓 ☆

『石の装身具生産』

守山市に滑石(モースの硬度計で硬度1の軟らかい緑色の石)や碧玉(翡翠の一種で緑色の石)、さらに瑪瑙(赤や黄色の石)などを原材料とした装身具を生産していた遺跡がたくさんある。1979年に発掘した最初の生産遺跡である播磨田東遺跡では滑石や碧玉、瑪瑙で作られた勾玉が多量に出土したし、製作途中の石やその破片などがみつかった。最初はスコップで土を削ってきれいにしている最中に、削ると堅穴住居の埋土である黒い土の上に白っぽい緑色の筋ができるのに気づいたのであった。何なのかわからず、白い筋を探してみると緑色の軟らかい石であることがわかり、少し大きめの剝片を水で洗ったら、その石の表面に磨いたような痕跡が認められた。すごく感動するようなうれしさを覚えたのを記憶している。作業に参加していただいていた方にも、この滑石の特徴を説明して採集してもたったが、同時に見つける喜びも覚えてもらった。この発掘以後、古高町、勝部町、浮気町など多数の場所で出土することが確認されていて、その都度、参加してもらっている作業員の方に滑石を説明してきたお陰で、古墳時代の遺跡を発掘すると、こちらから説明しなくても、注意を払って探していただくことが可能になっている。この生産遺跡が隣の栗東町でも次々と明らかになり、野洲川流域に集中することが判明した。今では、守山市、栗太郡では古墳時代の集落を発掘する際には、皆が注意していると言える。しかしながら発掘調査が急がされ、ただ発掘することのみに重点があるような今日、見つけにくい装身具を見つけた遺跡発掘の楽しみ、またそれに至る苦しみなどは捨象されていくことが何とも寂しいし、残念であり、とても許せない気持ちになっている。

☆ 平成 7 年度 ☆

『市内遺跡発掘調査の回顧と展望』

市内遺跡の開発に伴う緊急発掘調査はおとろえることなく、今年3月末日までに行った調査は41件を数えることとなりました。今年度は、これらの調査を新たに加わった3人の調査員とともに9人体制で行なってきました。市内では、いつも5、6カ所の地点で同時に調査が進められている状態で、新発見も相次ぎました。しかし、遺跡の調査件数が多いということは、壊されていく遺跡も多いということでもあり、枚挙に暇がない調査事例を前に、ともすれば現地で検討もされず、紙切れに記録だけ残されていく行政処理的な調査に終わることがないように、一度一度の調査の積み重ねを大切に、今後の調査研究に寄与できるよう担当者それぞれが研鑽に努めたいと思います。発掘の大前提でもある調査成果の公開という点では、大洲遺跡、塚之越遺跡、二ノ畦・横枕遺跡の発掘調査のなかで四回の現地説明会と秋に「弥生時代の巨大集落」というテーマで特別展を開催しました。今後も調査成果をわかりやすく市民の方にみていただけるよう普及啓発にも力を注いでいきたいと思っています。

【縄文時代】下長遺跡、塚之越遺跡で中期後半代の土器・石器が、また伊勢遺跡、欲賀南遺跡、吉身西遺跡では晩期の土器が発見された。下長遺跡、塚之越遺跡の調査地点は直線距離で測ると約600mの間隔にあり地形的にみて類似の自然堤防帯の上に立地している。出土した土器の時期差や縄文集落としての両遺跡の関係が注目される。また遺構が確認される地層も、上下2から3層にわたるため沖積平野の縄文時代の集落のあり方やその調査方法が問われ直される段階にきている。

【弥生時代】中期前半代の調査事例として八ノ坪遺跡、中期後半代については下之郷遺跡、二ノ畦・横枕遺跡、播磨田東遺跡が、後期については大洲遺跡、下長遺跡、塚之越遺跡、吉身西遺跡等があげられる。今市遺跡周辺は最近、弥生前期から中期にかけての遺構遺物が発見されてきて、にわかに注目されてきた遺跡である。今回も方形周溝墓が検出されたことから、どの集落の墓地かが問題となってきた。酒寺遺跡の外側の大溝（下之郷遺跡の環壕の可能性あり）から長さ2m以上に復元される漆塗りの弓と赤色顔料が塗られた盾が出土した。出土した弓と盾が実用的な武器であるのか祭祀的な儀器であるのか、その意味が問われた。問題点は遺物の解釈に止まらず、環壕集落の性格や弥生時代の戦争について派生することで、遺跡解明の努力が期待される。二ノ畦・横枕遺跡では環壕集落の内部の調査で中期後半代の木組み井戸が2基、竪穴住居などが発見された。枅材をはめた井戸としては最古期のものとして評価されるとともに年輪年代学による分析の結果、各々の井戸枅材の伐採年代が与えられた。一つは、紀元前97年、もう一つは紀元前60年という結果で、井戸枅材の内部から出土した土器と考え合わせると、弥生時代の実年代を検討する重要な資料となった。播磨田東遺跡では中期後半代の円形住居と長方形プランの特殊な土塼を検出した。土塼は、内側周壁部分が焼けて赤変しており、鉄生産に関わる遺構の可能性があったため、土を洗浄したが、結果は得られなかった。しかし、生産に関わる遺構の可能性はある。大洲（伊勢）遺跡の調査は後期から古墳時代初頭にかけての集落の内部の調査であった。大型建物（独立棟持柱付建物）2棟、竪穴住居11棟、柵列などが検出されたが、その他に掘立柱建物の柱跡と考えられる穴が2千個以上見つかっており、集落内でこの地点の意義づけが課題である。吉身西遺跡では、五角形住居が発見された。どのような階層の人がこの住居に住まっていたのか関心が持たれている。

【古墳時代】播磨田東遺跡、吉身北遺跡、二ノ畦・横枕遺跡、下長遺跡、益須寺遺跡、赤野井遺跡、塚之

越遺跡などで調査が行われた。弥生後期から古墳時代初頭にかけては、塚之越遺跡で方形周溝墓群が調査された。墓群の中には、前方後方型周溝墓や木棺墓なども確認された。前方後方型周溝墓については、古墳が発生する経緯や、前方後方墳が多数所在する東海地方との関係が話題になった。下長遺跡では、同時期の竪穴住居跡が10棟以上確認された。建て替えによる重複とも理解されるが、集落内でも特に竪穴住居の密集する地域と考えられる。またこの集落の住人の墓が、塚之越遺跡の周溝墓群の造営主体ではないかと推測される。古墳時代前半期については、益須寺遺跡で1棟、岡遺跡で2棟、播磨田東遺跡で4棟の竪穴住居が発見された。いずれも方形プランで床面までは、かなり深く掘り窪められていた。出土した土器は須恵器が登場する前後の段階のもので近江型土器（受け口状口縁土器）の終焉を探る良好な資料となる。また、赤野井遺跡の井戸からは、前期の土器の良好な一括資料が得られた。吉身北遺跡では後期の竪穴住居から滑石製品や未製品、チップなどが出土し、玉生産の遺跡が明らかとなった。吉身西遺跡の水田跡は大きい川の跡で低い土地を利用して作られた不定形小区画のものであった。二ノ畦遺跡では幾つもの竪穴住居とともに様子の変わった掘立柱建物跡が検出、注目されたが、どのような人々が住まいしたか検討しなければならない重要な遺跡である。

【奈良・平安時代】奈良時代で特筆すべきは十二里町^{じゅうにり}地先^{ちさき}で出土した墨書土器である。『口家』と書かれており、この一帯で当時の文字の使われ方や家族等の実態を究明する材料が見つかったと言える。吉身町地先での二ノ畦遺跡では柱穴が大きく、しかも建物の規模も大きな掘立柱建物跡が幾つも発見された。場所が馬路石^{うまじい}辺神社の北側にあることから、建物を構築した人々を究明することが求められる。時期は奈良時代から平安時代にかけての遺跡である。

【鎌倉・室町時代】この時代の遺跡発掘調査は赤野井・伊勢・下長・塚之越・欲賀南遺跡などで行われた。欲賀南遺跡では現在の欲賀町の西側から南、さらに東側にまで及ぶ広大な集落が広がっていて、土地の高い畑には必ず集落が眠っている状況であった。塚之越遺跡では、幾つかの建物がまとまっているが、大きな溝などでは区画されておらず、散村状の村であったことが想定された。古高遺跡では平安時代にまで遡る建物が見られたが、幅約3mの道状の遺構が発見された他、散村状の家の跡が確認された。また柱穴などから多数の鉄器が出土した。二町鏡遺跡では幅広い大きな区画溝とその内側から建物跡が発見されている。これまでの調査でも良く似た村の跡が発見されているので、村の大きさや区画のあり方を復元するのが課題である。

【普及・啓発事業】現地説明会が4回、小学生の体験学習が3回、乙貞が6回発行、特別展示会1回など市民や学校などを対象とした事業が行われた。展示会については専門的なテーマではあったと思われるが守山市に所在する弥生遺跡が全国的にどのような位置づけがなされるべきかを問う企画であり、注目される時期での開催であった。今後も展示会の企画は守山市の発掘状況に見合ったものを提供したい。

【編集後記】どのようなことを考えながら調査を進めたのか、発掘をしてどのような問題や課題があるのかという遺跡調査現場の生の声を盛り込みたいという思い。守山市で行なっている発掘の情報をすばやく、もれなく公開し、残していきたいという思い。一般の方に、わかりやすい言葉で成果をお知らせし、歴史や考古学を身近なものとして親しんでもらいたいという思い。そのほか『乙貞』には、たくさんの思いをもって編集に臨んだのですが、実際には調査に追われ、ほんとにおもしろい企画やわかりやすい内容になったのかと、反省しております。ただ今年は、新しいスタッフが加わり、遺跡の見方や調査の仕方について編集時に議論できたことは、今後の調査にきっと役立つことだと思っています。

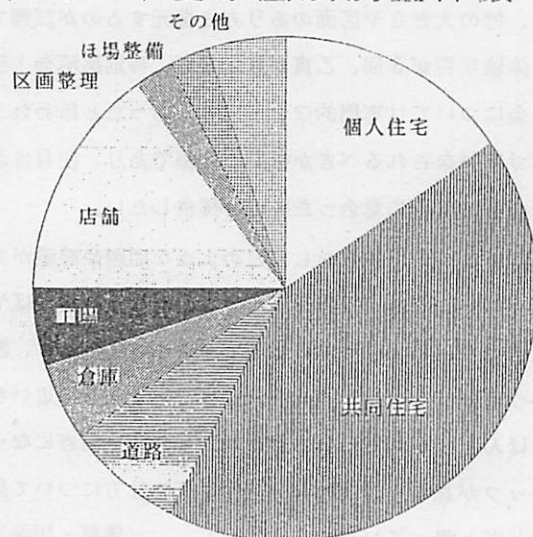
（藤原・川畑）

平成7年度 市内遺跡発掘調査一覧

(守山市教育委員会)

番号	遺跡名	調査地	調査期間	原因	時期	遺構	調査面積
1	赤野井遺跡	十二里町字畑合659番地	10/17～ 11/8	道路建設	古墳前期～平安	坪・石垣・土・溝	400
2	伊勢遺跡28	伊勢町字南東浦84-1	5/10/26～ 5/31	土地区画整理	縄文～江戸	土・石垣・土・溝	10000
3	伊勢遺跡29	伊勢町字伊勢里257	9/15	個人住宅建築	近世	井戸・排水用溜め池	398
4	伊勢遺跡30	伊勢町字大苗代302,304-7	12/20～ 3/22	共同住宅建築	縄文～弥生	柱穴・土・溝	500
5	伊勢遺跡31	伊勢町字伊勢里525	3/4～ 3/22	個人住宅建築	中世	柱穴・土・溝	80
6	今市遺跡	伊勢町字252-1,1253-1,1254-1	12/20～ 2/29	宅地分譲	弥生中期	方形周溝墓・溝	3000
7	大州遺跡5	阿村町字大州162番地	6/10/～ 7/1	宅地造成	弥生後期～古墳前期	土・石垣・土・溝	1800
8	岡遺跡	岡町字寺前	12/20～ 1/16	共同住宅建築	古墳前期～後期	竪穴住居・溝	160
9	酒寺遺跡32	播磨町字平成の里3114	4/18～ 5/20	個人住宅建築	弥生後期～古墳前期	土・石垣・土・溝	270
10	酒寺遺跡33	播磨町字上駒379-6	6/18～ 6/23	店舗建築	古墳前期	方形周溝墓	220
11	酒寺遺跡34	播磨町字14街区3	6/27～ 6/31	共同住宅建築	古墳前期	土・溝	380
12	酒寺遺跡35	播磨町字平成の里3076-2	9/29～ 10/20	店舗建築	弥生中期～後期	溝(下層の堀の可能性がある)	300
13	酒寺遺跡36	播磨町字平成の里3001	11/24～ 12/28	店舗建築	弥生中期～古墳前期	方形周溝墓	500
14	下長遺跡14	大門町字盆瀬坊323-1	4/24～ 9/30	工場用地造成	縄文中期・古墳初頭	竪穴住居・噴砂跡	2054
15	下長遺跡15	古高町字池之田477-15	7/17～ 9/27	工場建設	近世～昭和	土・石垣・土・溝	550
16	下之郷遺跡	下之郷町シノ	4/20～ 4/28	個人住宅建築	弥生後期	竪穴住居	900
17	女天神遺跡	守山町	2/20～ 4/30(予定)	数軒建築	古墳～室町	柱穴・土・溝	1187
18	塚之越遺跡9	古高町地先字塚之越	5/20～ 9/2	倉庫建設	近世～昭和	土・石垣・土・溝	750
19	塚之越遺跡10	古高町字正築	9/11～ 10/31	共同住宅建築	弥生後期～中世	方形周溝墓・溝	600
20	塚之越遺跡11	古高町字北林他	10/24/～ 8/12/31(予定)	宅地造成	縄文～中世	方形周溝墓・溝	4500
21	二ノ畦遺跡5	守山町吉身4丁目宮ノ北617	12/1～ 3/15	宅地造成	古墳前期～奈良	土・石垣・土・溝	2500
22	二ノ畦遺跡27	下之郷町字向八代1-1	6/15～ 12/20	店舗建築	弥生中期～平安	土・石垣・土・溝	2100
23	二ノ畦遺跡6	播磨町字北横内110番地-1	5/22～ 8/31	共同住宅建築	弥生後期～古墳中期	竪穴住居・土・溝	600
24	二ノ畦遺跡	下之郷町	10/～ 11/	店舗建築	古墳前期～平安	土・柱穴	512
25	二町鏡遺跡8	二町町字堂ノ内216,217	5/29～ 6/16	共同住宅建築	鎌倉	土・石垣・土・溝	400
26	二町鏡遺跡9	二町町字堂ノ内141-1,141-2	11/21～ 12/15	宅地分譲	鎌倉～室町	土・石垣・土・溝	360
27	古高遺跡	大門町字高橋	10/20～ 12/10	宅地造成	弥生中期～鎌倉後期	掘立柱建物・溝	2300
28	古高城遺跡	堀底堂町字友	5/8～ 6/9	店舗建設	平安以降	土・柱穴	633
29	古高城遺跡	古高町字東門前29番地	1/22～ 3/22	宅地造成	弥生後期～鎌倉	土・石垣・土・溝	1479
30	欲賀南遺跡3	欲賀町字上郷、下郷	6/7～ 12/22	ほ場整備事業	縄文晩期～江戸	土・石垣・土・溝	5300
31	益須寺遺跡	吉身町6丁目園田156-2	2/5～ 2/27	個人住宅建築	古墳時代前期	竪穴住居	110
32	横江遺跡	横江町字高内164-1	10/26～ 10/27	個人住宅建築	鎌倉	土・石垣・土・溝	100
33	吉身北遺跡	勝部町字松塚422-5	8/1～ 11/30	新築・改築・修繕工事	古墳後期・平安	土・石垣・土・溝	1305
34	吉身中遺跡8	守山町	11/～ 2/	道路改良	弥生後期～古墳	土・石垣・土・溝	1500
35	吉身西遺跡65	守山町字南高田1303	4/20～ 4/27	共同住宅建築	古墳後期	溝・柱穴	183
36	吉身西遺跡66	守山町字南高田	4/21～ 5/19	共同住宅建築	弥生中期～中世	方形周溝墓・土・溝	730
37	吉身西遺跡67	守山町字下ヌケ田422-5	8/7～ 9/7	新築・改築	縄文晩期～古墳後期	旧河道・水田・土・溝	1350
38	吉身西遺跡68	下之郷町字八作720-2	9/11～ 11/2	新築・改築	古墳前期～平安後期	土・石垣・土・溝	800
39	吉身西遺跡69	守山町字南下道田139-4	11/9～ 11/16	個人住宅建築	縄文～弥生後期	竪穴住居・柱穴	100
40	吉身西遺跡70	守山町510	11/1～ 8/3/15	市民病院建築	弥生後期～古墳後期	竪穴住居・柱穴・溝	3000
41	吉身西遺跡71	下之郷町字下鎌田647,601-2,601-4	3/4～ 3/14	共同住宅建築	古墳前期	溝	230

平成7年度原因別調査件数



	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
個人住宅	12	12	7	9	8	5	7
共同住宅	5	7	8	10	11	11	17
道路	0	4	2	5	5	6	3
店舗	6	7	3	3	0	2	2
工場	3	7	7	2	1	0	2
店舗	4	6	5	4	6	6	6
区画整理	1	1	1	2	2	1	1
ほ場整備	0	0	0	1	0	1	1
その他	2	0	3	4	0	1	2
合計	33	44	36	40	34	33	41